

## 島の山古墳第10次発掘調査について

川西町教育委員会

### 1 はじめに

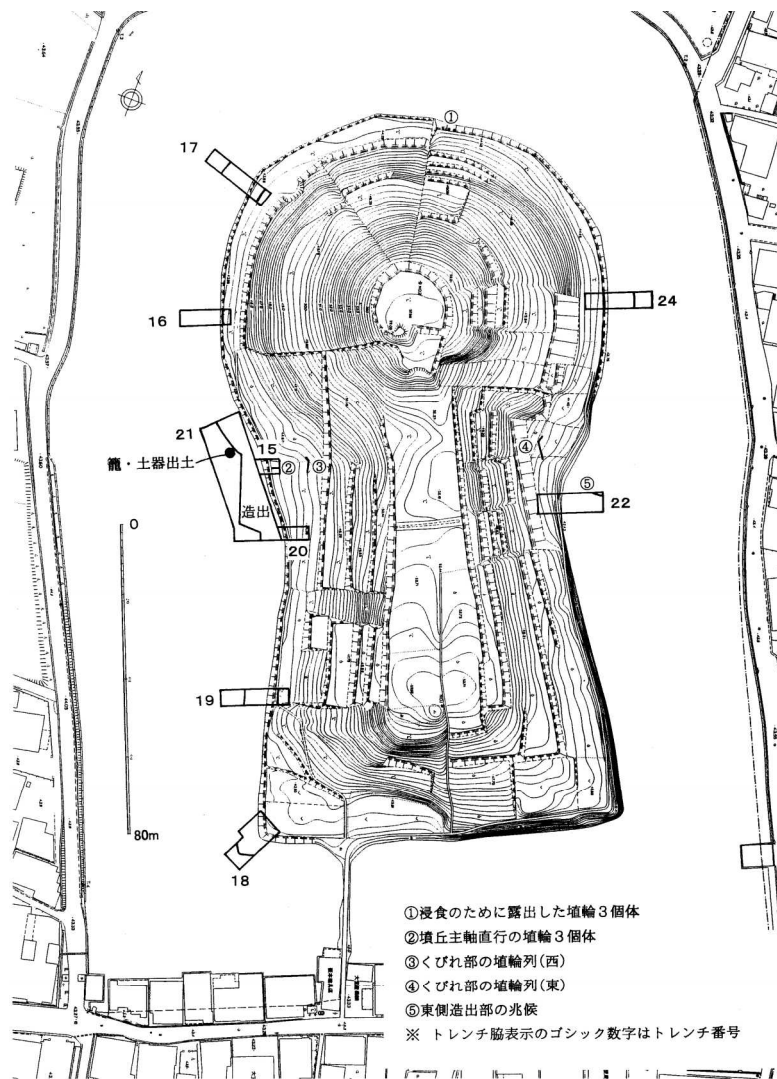
島の山古墳は奈良県磯城郡川西町大字唐院に所在し、大和盆地中央に位置する大型前方後円墳で、平成14年9月20日付で国の史跡に指定されました。平成15年度より行われている史跡整備に伴う調査としては3年目にあたり、調査全体としては10次調査にあたります。

平成15年以降の調査でトレンチ15(図版1参照、以後同様)において西側造出部に伴う埴輪列と思われる埴輪を3個体検出した。他にも墳丘最下段の埴輪列をトレンチ16・17・19で検出しています。また墳丘裾もトレンチ17・18・19・20で検出しました。特にトレンチ18検出の埴輪裾は古墳南西部の角に相当し、葺石の検出こそ

ありませんでしたが、墳丘の南限がほぼ確認できました。トレンチ20においては西造出(つくりだし)の南側付け根を検出し、トレンチ15の調査結果と合わせ、西くびれ部に造出が存在することが確実といえる状況となりました。また西側の埴輪裾ラインがほぼ解明できました。そのため今回の調査はこの造出の全容を明らかにすることと、未調査であった東側の埴輪裾を調査する事を目的に行うこととなりました。

### 2 調査の概要

今回の調査では墳丘の東西3カ所にトレンチを設けました。西側くびれ部にはトレンチ21を、東くびれ部にトレンチ22を、後円部東にトレンチ24を設置しました。以下トレンチごとに解説します。



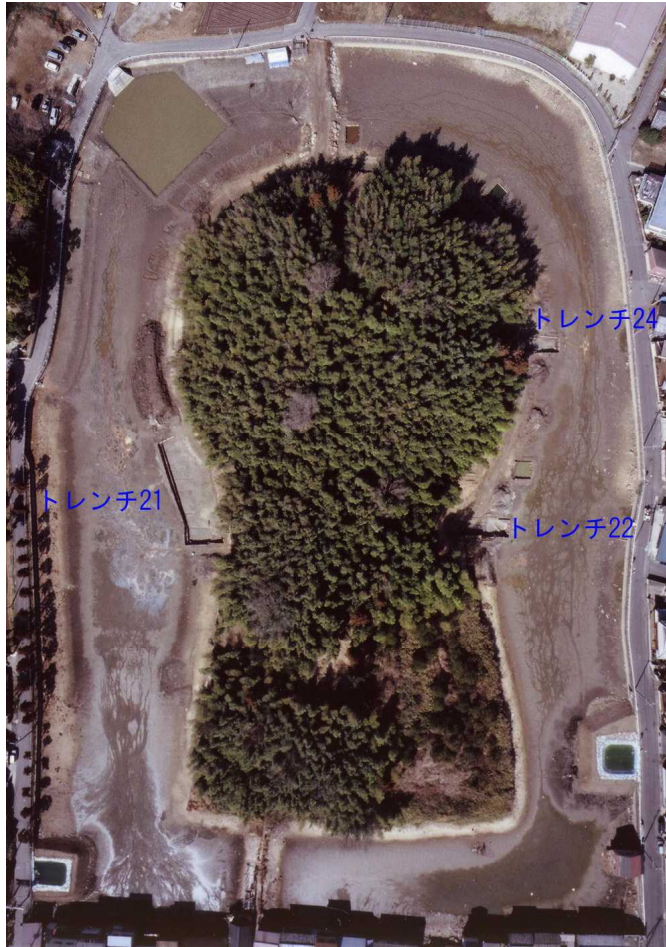
図版1 トレンチ(調査区)設定状況と過去の埴輪調査

## トレンチ21

トレンチ21は平成15年度のトレンチ15と平成16年度のトレンチ20をつなげる形で調査しました。トレンチの規模は南北33m、東西11mで面積363㎡です。

このトレンチを掘削したところトレンチのほぼ中央で造出を検出しました。各辺の長は西辺16m、南辺6mです。ただし造出西端の斜面には葺石が検出されなかったため、この今回検出された三角形の輪郭ラインがそのまま造出築造当初の輪郭ラインと断定できません。また、トレンチ15では検出されていた造出の上面は大きく削られていました。今までの現状地形の観察では造出の存在を指摘できなかったのはこのためだったのですが、最近3年間の一連の調査で造出の存在がはっきりしました。トレンチ北側では、後円部墳丘の斜面から葺石が約1.5mの幅で検出されています。

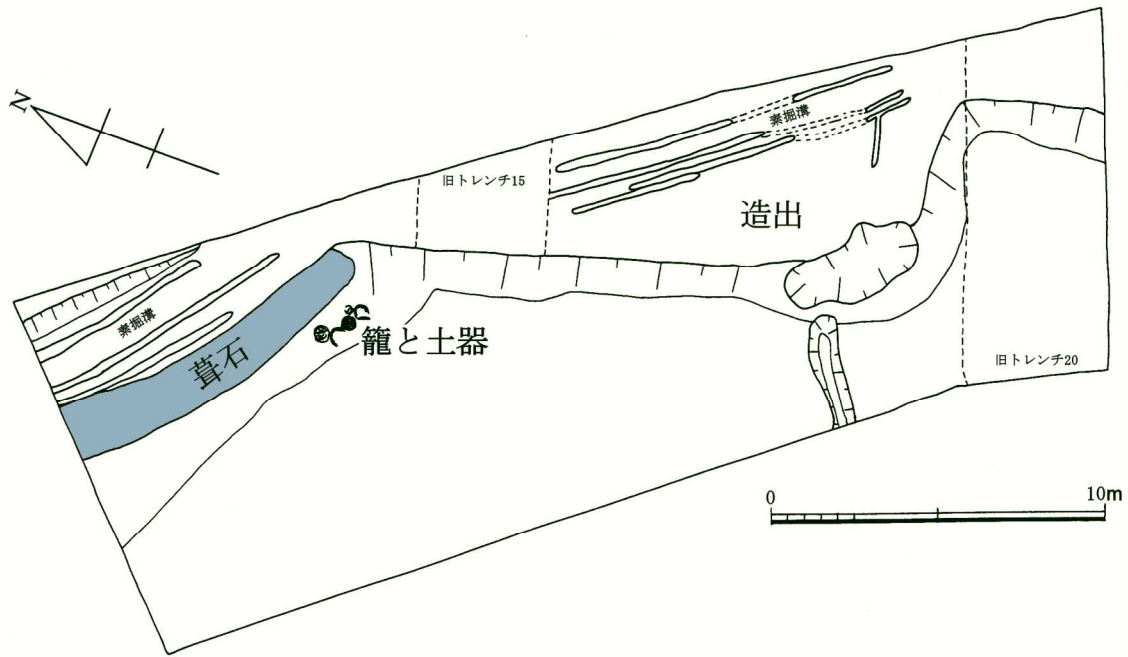
遺物は363㎡の調査面積に比べて量的に埴輪片、土器片ともに非常に少ない中で後円部葺石の西側より植物製の籠が出土しました。この籠は検出時、葺石の上面を埋めていた砂層から出土しており、籠の底が周濠底についていました。このことはすぐ近くで出土した古墳時代5世紀前半台の甕とともに、この籠が島の山古墳の築造された時期と接近した時期に据えられていたことを意味します。またこの籠中の堆積土から菱の実が1点、離れた場所で桃の種2点が出土しました。籠の材質は現時点で不明で、編み方は向かって左から1番目のものがザル目編み、他のものは四ツ目編みで、左から1番目と3番目のものは目が粗く作られています。他の古墳に目を向けますと、巢山古墳、金蔵山古墳等にいわゆる「笊型土製品」が出土しています。これらは造出部にも出土例があり、今回の「籠」も造出付近より出土しています。



図版2 10次調査トレンチ(調査区)の配置



図版3 トレンチ21空中写真及び造出検出状況



図版4 トレンチ21遺構検出状況図



図版5 籠と葺石出土状況(西から)



図版6 籠出土状況(西から)

### トレンチ22

このトレンチはトレンチ21で検出された造出が東側においても検出されるかを検証する事を主な目的としました。トレンチの規模は幅4m、長18.5m、面積74㎡です。このトレンチでの成果は造出の一部と思われる地山の高まりを検出した点にあります。

ここでは古墳の遺構が後世の削平で大きく改変されていました。墳丘西端において埴輪列が検出されず、トレンチ中央部においても周濠部が明治時代まで農地として使用されていた当時の溜池跡が2回に渡って掘削されていたことが明らかになりました。



図版7 トレンチ22検出地山の高まり(西から)

### トレンチ24

後円部東に設定した幅4m、長17m、面積68㎡のトレンチです。このトレンチでは葺石と埴輪列が検出されました。ただし埴輪は池水の浸食により埴輪列の直下の墳丘がえぐれ、上の墳丘が自重に耐えきれずに崩落した後の状況でした。本来なら島の山古墳の今までの調査では4mのトレンチ幅では8～9個体出土しますが、崩落の影響で確実に個体が指摘できるものが4個体、名残を残すのみのものが1個体、位置は全くはずれているが元の個体の位置をかりうじて想定できる破片が1個体分、計6個体分検出されました。

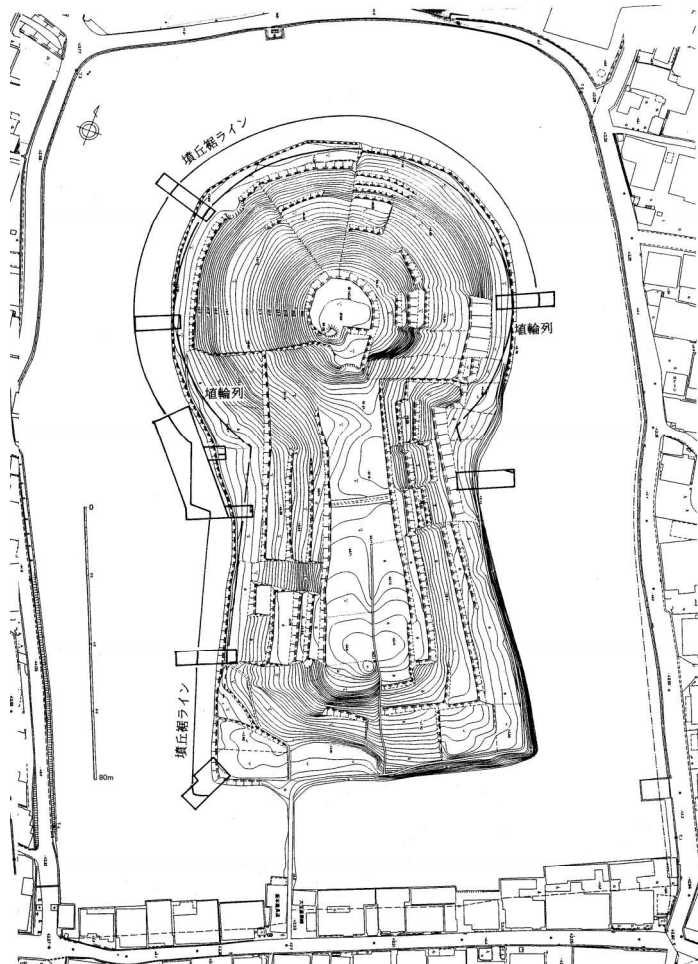


図版8 トレンチ24出土埴輪列(北から)

### 3 まとめ

今回の調査の成果としてはまず古墳築造と接近した時期の植物製籠が出土した点が挙げられます。過去の古墳の調査において箆をかたどった土製品がくびれ部や後円部墳頂等から出土することはありましたが、今回のように植物製の実物が出土したことは非常に稀な例です。またこれらの籠が造出の付近から出土した点からみてこの籠は祭祀に関わる行為に使用されていた可能性が高いといえます。

墳丘の復元においても大きく前進がありました。今回の発掘調査で検出された埴輪列や墳丘裾の位置を図面に落として復元を試みると、図版9のと通りの復元ラインとなります。この図では島の山古墳の本来の全長は200



図版9 墳丘裾ライン復元想定図

mを超えることがわかります。またトレンチ22から検出された地山の高まりは、トレンチ21の造出から葺石が検出されなかったため、形状の確定には至らなかったことから、今後造出の形状確認に期待がかかります。